



コロナ禍を経て、人々の仕事観やキャリア観は、今、大きく変化しつつある！

会社軸ではなく自分軸。個人がどのような価値を生み出せるかを自分で考える時代に

リモートワークや副業解禁が一般化するなど、今、働く人たちの間で、これまでになかった大きな変化が起きている。こうした動きに伴い、人々の働き方はもちろん、より本質的な仕事観やキャリア観も大きな変化の時を迎えている。会社軸で生きる時代から、一人ひとりが「自分は社会に対してどのような価値を提供できるのか」というテーマに向き合う時代へと世の中が移り変わるなかで、これから社会に出る若者に求められることは？

取材・文／伊藤敬太郎 イラスト／ミヤザキコウヘイ

終身雇用が崩壊し、会社は働く人たちの自由を尊重する方向へシフトしている

かつての日本企業を支えてきた終身雇用が「崩壊した」と言われるようになって久しい。2019年には、日本を代表する企業であるトヨタ自動車の豊田章男社長が「終身雇用の維持は難しい」と発言したことが話題となったように、この流れはもはや不可逆だ。かつては当たり前だった「一つの会社で定年まで勤め上げる」という考え方がもはや通用しなくなっていることは読者の多くも感じているところだろう。

一方で、ここ数年、「働き方改革」「リモートワーク」「副業解禁」などが企業経営の世界ではキーワードとなっている。多くの

企業が試行錯誤をしながら、長時間労働の見直し、働く場所や時間の制限の緩和、さらに自社以外の仕事をする自由を認める方向にシフトしてきている。

この二つの大きな流れが意味することは何だろうか。今の高校生が社会人となる将来に向けて、日本人のキャリア観や仕事観はどのように変化していくのだろうか。働く人の独立・起業を支援するWEBメディア『アントレ』編集長の平野 謙氏は、今、起きている動きを次のように解説する。

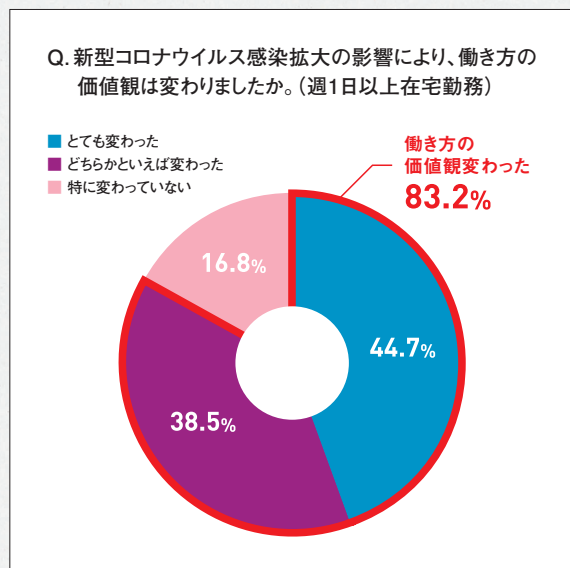
「終身雇用・年功序列の崩壊、副業の解禁などが起きている要因は大きく二つあります。一つは、不確実な時代に入り、企業が未来を予測できなくなったことです。これからの社会や市場の変化の見通しが立たない以上、自社で社員を定年まで抱え続けることは企業にとって大きなリスクとなりますから。もう一つは、日本社会全体でさらに少子高齢化が進み、労働力が不足してくるからです。労働力を確保するために、企業は、もはや副業はダメだ、オフィスに来なければダメだと言っていられなくなりました。これらの動きはコロナ禍によって一気に加速。本来10年程度はかかるはずの改革が2年程度で進んだという印象です」

重要なのは、こうした動きは、単に企業の雇用や管理の制度が変化しただけにとどまらないという点だ。終身雇用などこれまでの支えとなっていたものがなくなり、代わりに副業や働く場所などに関する自由が与えられたことは、働く人の仕事や働き方、キャリアに関する考え方にも大きな影響を及ぼしていると平野氏は言う。

「今まで、仕事や働き方は会社が決めてきましたが、これからは働く個人が、働き方や組織とのつながり方を自己決定する『セルフシフト』が進んでいきます。働く人たちの間で一人ひとりの専門性や個別の職能が重視されるようになり、自分の身は自分で守る意識の高まりとともに、自分のライフスタイルを追求したい気持ちが強くなってきているのです」

アントレでは、コロナ禍前後の働く人の意識や価値観の変化

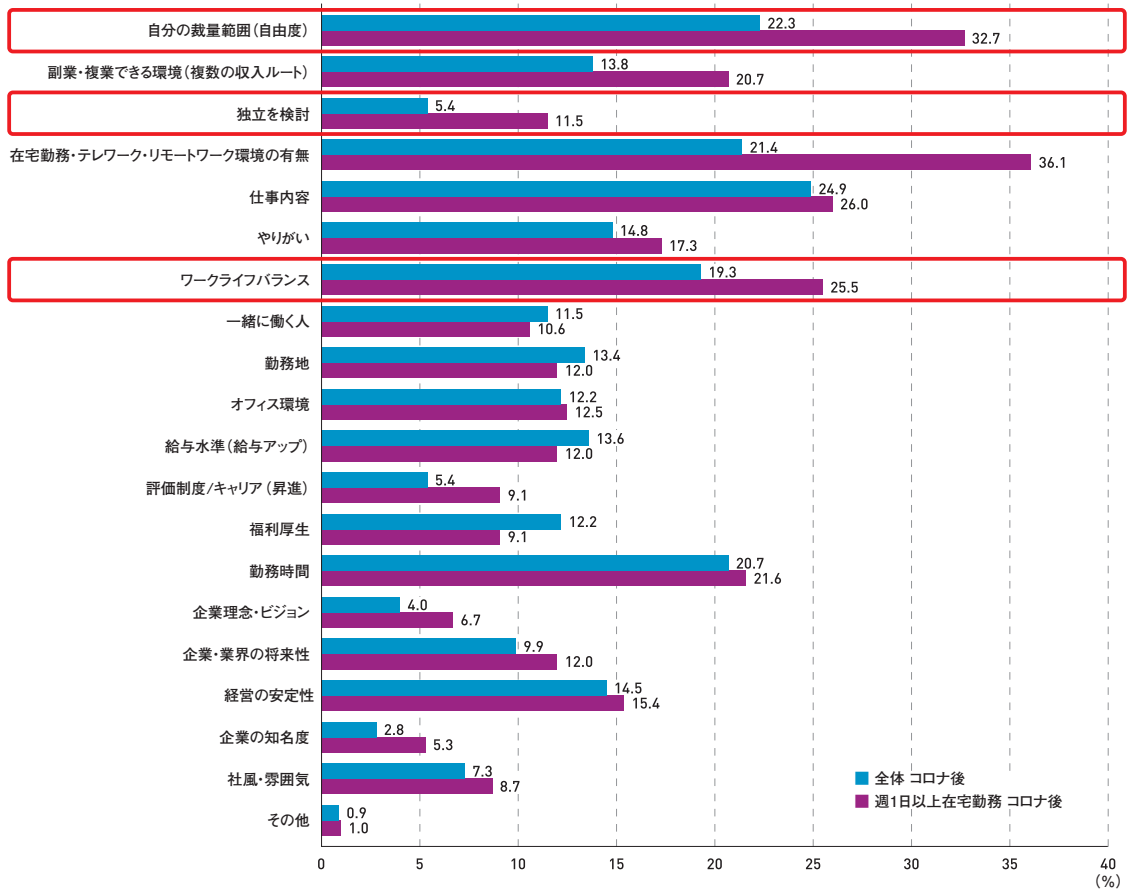
図1 コロナ禍で働く人の価値観に変化が



コロナ禍によるリモートワークで働き方の価値観が変わった人は8割以上になる
図1～3出所／アントレ「コロナ影響下における働き方の意識変化調査レポート」(2020)

図2 コロナ禍での在宅勤務を経て、働く人々が重視するようになったこと

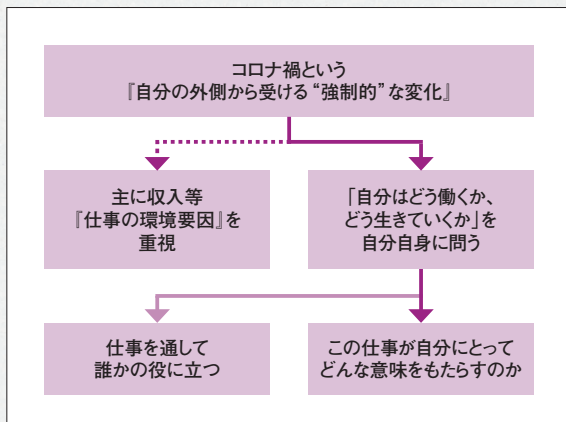
Q.新型コロナウイルス感染拡大の発生以前に比べ、働き方において重視するようになったものをすべて選んでください



に関する調査を実施。そのうち「新型コロナウイルス感染拡大の影響により、働き方の価値観は変わりましたか」という質問に対し、在宅勤務経験者の8割が「変化あり」と回答している(図

1)。変化した項目をより詳細に尋ねたのが図2だ。アンケート対象者全体と、在宅勤務経験者とを分けて、「コロナ後に重視するようになったもの」を質問したところ、「自分の裁量範囲(自由度)」「独立を検討」「ワークライフバランス」などの項目で、在宅勤務経験者が全体を大きく上回っている。

図3 働く価値観の変化

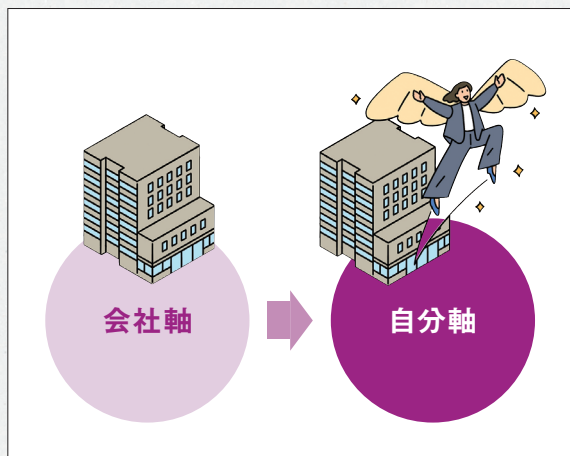


「自分はどのような価値を生み出せるか」を
個人が自分自身に問い、答えを探す時代に

「在宅で仕事をしていると、周りに人がいない環境で、自分の仕事そのもの、自分のアウトプットに純粹に向き合う時間が長くなります。そのため、『目の前にある自分の仕事に何の意味があるのか』『自分の仕事はどれだけの価値をもっているのか』とじっくり考える人が多くなったことも大きいと思います」

図2で「独立を検討」する人たちが全体の倍以上に上っているのは注目すべきポイントだ。今までは独立というと、意識や能力が高い一部の人たちの選択肢と捉えられていたが、在宅勤務

図4 「会社軸」から「自分軸」へ



仕事やキャリア、生き方、価値観について会社が決めてくれる時代は終わり、これからの時代は自分のことは自分自身で決定する「セルフシフト」が進んでいく

務でより多くの人に意識変容が起こったことにより、独立という選択肢は特別なものではなくつつある。

「アントレの会員（独立を志向している人）への調査では、数年後の独立を目指して副業を開始しているという人も増えています。もはや「雇われる」か「脱サラ」という対立軸で考えるのではなく、「雇われつつ副業する」ということも当たり前の選択肢になっています。つまり、一つの会社に縛られるのではなく、自分の裁量で仕事、収入源を増やしていこうとする人たちが増えているんですね。その先の独立もより身近なものになってきています」

コロナ禍で働く人たちの間に起こった意識変容を改めて整理したのが図3だ。まず、コロナ禍という外的要因による強制的な変化が起き、収入をどうやって確保するかといったことを自分で考えざるを得なくなった。それは同時に、「自分は働くか、どう生きていくか」を見つめ直す機会ともなり、「この仕事が自分にとってどんな意味をもたらすのか」「自分の仕事を通して誰かの役に立っているのか」という自らへの問いにつながっていったという流れだ。

「まだ将来自分がやりたいことが決まっていないという高校生は多いと思いますが、実は大人も同じなんです。アントレでは50代、60代に向けても独立に関する相談に乗っていますが、キャリアを重ねた大人でも実はそこはじっくり考えてこなかった。その意味でコロナ禍は大きなきっかけとなりましたね」

図3で示した意識変容が前述のセルフシフトにつながっている。これからは自分の仕事やキャリアについて会社軸ではなく自分軸で考えることが求められるようになっていく（図4）。そのときに重要になるものは何か。

これまで、社会に対して価値を提供するのは会社であり、極論を言えば、働く個人は自分でその点について掘り下げて考えなくても価値提供に貢献することができた。しかし、会社軸ではなく自分軸で考え、行動することが求められるとなると、「自

分は社会に対してどのような価値を提供できるのか」という問いが直接自分に向けられることになる。そうすると、「そんな自信はない…」と尻込みしてしまう人も多いだろう。しかし、平野氏は、「価値を生み出す」ことについてあまり大ごとに考えてほしくないと言う。

失敗を糧にして変化できる人が成功する時代になっていく

「新しい価値を生み出すというと、一部の優秀な人たちが生み出す、世界を変革するようなイノベーションをイメージする人が多いでしょう。しかし、当然ながら、誰もがスティーブ・ジョブズになれるわけではありませんし、今求められている価値はそのようなスケールの大きなものばかりではありません。世の中のニーズは多様化しているので、新たな価値のサイズも小さくなってきています。サービスや商品の流通コストも下がっていますから、今は、100人、1,000人が喜んでくれるサービスを生み出せれば、それで仕事として成立し得る環境になっているんです。例えば、自分で作った手芸品をフリマアプリで全国に販売することだって立派な価値の提供。自分ひとり、あるいは家族が生活していただければ、そのくらいのスケールでも十分やっていけます」

そのようにスケールダウンして、自分の得意なこと、好きなことでどのような価値が提供できるかを考えていくことが第一歩。そこから始めることで、組織に頼らず、自分軸で、仕事やキャリアを考える力が養われていく。

では、自分軸のキャリアを切り拓いていくために、これからの若者にはどのような学びが求められるだろうか。例えば、「自分が社会にどう価値を提供できるのかわからない」なら、大学でさまざまな角度から現代の社会が抱える問題について知ることを選択肢の一つだろう。「価値を生み出す具体的な方法を身につけたい」なら、データサイエンスやAI、動画制作など、現代の問題解決で重視されているスキルを習得するのも一つの手。大切なのは、自分軸で考え、決めることだ。

また、平野氏は、何を学ぶかということと同時に、どこでどのように学ぶかが若者にとっては重要だと言う。

「極論を言えば、日本は、ここ20～30年、失敗しない人が出世してきた時代でした。しかし、これからは、失敗を恐れず、失敗を糧に変化する人が成功すると私は考えています。ですから、若い人たちは小さくて構わないので失敗できる機会を普段からたくさん設けることが大切だと思います。自分が安心できる場所を飛び出してチャレンジしてほしい。大人にとってはそれが副業だったりするんですが、大学生にはもっと多様な機会がありますよね。アルバイトやインターンシップ、さらに大学によっては起業サークルなどもあります。チャレンジというと身構える人も多いかもしれませんが、小さなことで構わないので身近な行動を変えることから始めてみましょう」

平野氏は、高校生に向けてこうメッセージを贈る。